

2023年度

自己評価票

2024年4月18日作成

- ① 各設問の該当項目に レ 印を付けます。その他に事業所独自で行なっている取り組みや工夫している点があれば、自由記述欄に記入します。
- ② 各項目の☆印は重点項目を示します。
- ③ ☆印は2点、その他の項目は1点として計算し、最高8点です。
- ④ 評価は、次の4段階です。 8点～6点 ⇒ A 5点～4点 ⇒ B 3点～2点 ⇒ C 1点以下 ⇒ D
- ⑤ 各設問で用いている用語の説明や、設問の主旨を理解いただき、自己評価に臨んでください。
- ⑥ 次の用語については、特に記載のない限り、次のようにご理解ください。
 - 職員……設問の内容に関わる業務を行う職種の職員をいい、常勤・非常勤の両方を含みます。
 - 研修……職場外で受講する研修、職場内で行う研修（集合型、個別型）の両方をさします。
 - 取り組み……事業として取り上げて取り組んでいない場合でも、そのような状況があり、ルール化されている場合も含みます。
 - マニュアル……体裁や記載内容の濃淡を問わず、設問の内容に関する内容の記載があるものをさします。
 - 手順……体裁の有無を問わず、設問の内容に関する内容についてルール化されているものをさします。

広島県福祉サービス第三者評価推進委員会

1. 事業所運営の基本

(1)サービスの質の確保

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
1	職員会議	職員間において、定期的または随時に情報共有する体制がとられていますか。 ☆■ ① 職員全員が参加する会議(職員会議, ミーティング)を定期的実施している ■ ② 必要な場合は, 職員全員が参加する会議(職員会議, ミーティング等)を随時, 実施している ■ ③ 非常勤職員にも, 日々の保育に必要な情報が伝わる仕組みがある ■ ④ 共有された情報は, 適切に記録・保存されている ■ ⑤ 職員会議に参加できない職員には, 会議録の回覧を行うなど, 情報共有する手段を講じている ☐ ☐	A	毎月、職員会議を実施しており、参加できない職員がいつでも閲覧できるように会議録の保管場所を決めている。また、伝達ノートを用いて必要な情報が全職員に伝わるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
2	指導助言の実施体制	職員が指導助言を受ける仕組みがありますか。 ☆■ ① 保育所内に指導助言を行う職員がいる ☐ ② 職員が抱えている課題に的確に応え, 法人の理念や基本方針に基づいた指導助言を行う仕組みがある ■ ③ 保育所長は, 指導助言を求めてきた職員への対応の経過を把握している ☐ ④ 必要に応じて, 専門職の指導助言を受ける仕組みを築いている ■ ⑤ 指導助言の中で得られた解決策は, 日々の保育に活かされている ☐ ☐	B	報告・連絡・相談を徹底するようにしている中で、必要に応じて助言を行っている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
3	個人情報の適切な取り扱い	子ども（保護者等を含む）に関する情報（データを含む）は、適切に取り扱われていますか。 ☆■ ① 子どもに関する情報を記録するために、保育所として統一した様式を作成している ■ ② 保管場所・保管方法を統一して定めるなど、情報の漏洩、放置、流出を防ぐ手段を講じている □ ③ 記録の記載方法に関する研修を定期的実施している ■ ④ 保育所長は、職員が作成した記録を定期的に確認している ■ ⑤ 子どもに関する情報は、個別かつ一元的に管理されており、必要な時にすぐに見ることができる □ □	B	記録簿の保管場所を定めており、記録をする際は園内で行い、園外への持ち出しは一切禁止している。また閲覧する際も許可を得るよう周知している。

2. 子どもの発達援助

(1)発達援助の基本

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
4	保育課程	保育課程は、関係法令や子どもの発達特性を踏まえ、長期的見通しをもって適切に編成されていますか。 ☆■ ① 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している □ ② 保育課程は、全職員が参画し、共通理解と協力体制のもとで編成している ■ ③ 保育課程における具体的なねらいや内容は、発達過程や年齢、個人差を踏まえた内容になるよう工夫している ■ ④ 保育課程と指導計画には連動性を持たせている □ ⑤ 保育課程は、地域特性やこれまでの蓄積を生かした特色あるものになっている □ □	B	保育課程におけるねらいや内容は、発達過程など踏まえた内容になるようにしており、指導計画との連動性を持たせるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
5	指導計画	指導計画は、定期的に評価および見直しが行われていますか。 ☆■ ① 指導計画の評価は、毎月1回、定期的に行っている ☐ ② 指導計画の評価は、職員全員で行っている ☐ ③ 指導計画を見直す必要が生じた場合は、所定の手順で変更している ■ ④ 指導計画に対する評価および見直しの結果は、次の計画作成に活かしている ■ ⑤ 保育所長は、指導計画の評価および見直しにあたり、必要な指導を行なっている ☐ ☐	B	各クラスで作成しており、必要に応じて園長が指導を行っている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
6	理解と受容	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容していますか。 ☆■ ① 職員は、常に、子どもが安心して自分の気持ちを表現できるような態度で接している ■ ② 子どもの要求や質問などに対して、何を求めているかを理解し、適切に対応している ■ ③ 「早くしなさい」とせかす言葉や、「だめ」「いけません」と制止する言葉を必要以上に用いないよう心がけている ■ ④ 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを受け止め、言葉で表すなどしながら、適切に対応している ■ ⑤ 登所中や保育中に泣く子どもに対して、放っておいたり叱ったりせず、状況に応じて、抱いたり優しく声をかけをし、子どもの気持ちに寄り添うようにしている ☐ ☐	A	子どもの気持ちを受け止め、代弁したり、表現の仕方を伝えたりしながら寄り添うように心掛けている。年に1回のセルフチェックリストや毎月の職員会議にて保育の振り返りをクラス単位と個人単位でそれぞれ行うようにしており、肯定的な表現で促すなど適切な対応を心掛けるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
7	さまざまな人との交流	さまざまな年代や文化を持つ人たちに親しみを持つよう働きかけていますか。 ☆■ ① 子どもが年代や文化、生活習慣の違いを理解できるよう働きかけている ■ ② 保育所の中で、異年齢の子どもとの交流が行われるよう計画している □ ③ 保護者に対して、異年齢の子どもや年代の異なる人たちと交流する目的について説明を行っている ■ ④ 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮を行っている ■ ⑤ 意思疎通が困難な場合には、母国語による資料提供や筆談など、代替策を用意している □ □	B	園行事だけでなく、午前中の縦割り保育や戸外遊びへ一緒に出掛ける等、異年齢児で交流を持つ活動を取り入れている。外国籍の保護者がいる際には、丁寧に話をしたり、必要に応じてひらがなで連絡帳に書き、個別説明を行ったりして、十分な理解を得られるような対応をするようにしている。お便りなどの配布物にはルビをふるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
8	先入観等を植え付けない配慮	性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないような配慮を行っていますか。 ☆■ ① 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による押し付けをしないよう配慮している ■ ② 順番、グループ分け、整列などは、性別にしないようにしている □ ③ 無意識のうちに性差による固定観念で保育を行わないため、職員研修を実施している ■ ④ 子どもや保護者等に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方、表現をしないようにしている □ ⑤ 育児、家事、介護、職業について、保育所は、固定的に捉えた話し方、表現をしないという姿勢を持っていることを、保護者等にも伝えている □ □	B	グループ分けや役割などは年齢や個々の発達を考慮して行うようにしている。また、ひとり親家庭の子もいるため、親の役割についても固定的に捉えた表現はしないように心がけ、子どもへの声の掛け方にも配慮している。

(2)健康管理・食事

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
9	健康状態の把握	子どもの健康管理は、適切に行われていますか。 ☆■ ① 子どもの健康管理に関するマニュアルがある ■ ② 既往症や予防接種の状況について、保護者等から必要な情報を得ようとしている ■ ③ 子ども一人ひとりの健康状態に関する情報が関係職員に周知されている ■ ④ 子どもの体調悪化・けがなどについては、特に留意して保護者等に伝えている ■ ⑤ 必要に応じて、降所後の対応について職員間で話し合っている ☐ ☐	A	毎日受け入れ時に体調を確認するようしており、病欠あけの時は特に保護者から丁寧に聞き取りを行い職員間でも申し送りをするよう心掛けています。登園時に体調不良が伺える園児に対しては、細目に検温するなどの配慮を行っている。また、怪我の具合や状況に応じ、降園後も保護者と連絡を取り、様子を確認することがある。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
10	健康診断等の実施	健康診断や歯科検診を定期的に行っていますか。 ☆■ ① 健康診断は、年齢別に適切な回数で実施している ■ ② 歯科検診が、定期的に実施されている ■ ③ 健康診断および歯科検診の結果は、全職員に周知されている ☐ ④ 健康診断および歯科検診の結果は、保育内容に反映されている ■ ⑤ 健康診断および歯科検診の結果は、保護者等に伝えられている ☐ ☐	B	健康診断は年齢別に実施している。また年2回、嘱託医による医科検診と歯科検診を行っている。結果については、連絡帳等で伝えており、治療券の発行等で早期治療を促している。未実施児童に関しては個別に嘱託医にて受診してもらうよう受診券の発行も行っている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
11	食事環境の整備	子どもにとって、食事が楽しみとなるよう配慮していますか。 ☆ ■ ① 子どもが落ち着いて、楽しく食事ができるよう、テーブルや椅子、音などの環境を工夫している ■ ② 発達に合わせた食事の援助を適切に行い、食事のマナーが身につくよう配慮している ■ ③ 食べたいものや食べられるものが少しでも多くなるように援助している ■ ④ 年齢や障害、疾病等により、食事に特別な配慮を必要とする子どもに対しても、食事を楽しめるよう工夫している ■ ⑤ 職員は、子どもの食べる量や好き嫌いを把握している ☐ ☐	A	落ち着いて食事ができるよう座る位置に配慮している。苦手な物でも量を調整したり声掛けをしたりする中で、完食できる喜びを味わえるように心がけている。マナーについても、活動の中で練習を取り入れ指導を行っている。離乳食についても子どもの様子に併せて提供し、食べる意欲につながるような関りを心掛けている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
12	食育の推進	子どもが生活と遊びの中で、食事を楽しみ合うよう、働きかけていますか。 ☆ ■ ① 食事の提供を含めた「食育の計画」を策定している ■ ② 地域のさまざまな食文化等に関心を持つことができるよう、食事内容や行事等の内容にも配慮している ■ ③ 食事は、季節感のある献立や食材を利用している ■ ④ 食材料の育成、食事を調べてくれた人への感謝の気持ちや命を大切にする気持ちを育むよう働きかけている ☐ ⑤ 子どもたちが調理作業をしている場面を見たり、言葉を交わしたりできるような場面を作っている ☐ ☐	B	地産地消を心がけて取り入れ、行事の内容や季節に合わせたメニュー作りを行っている。また、配膳についても子どもたちが喜ぶよう、見て楽しむことも考慮し工夫している。年数回の食育活動を通して食物に触れる機会を設け感謝の気持ちを育むように取り組んでいる。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
13	子どもの状況に応じた食事の提供	アレルギー疾患や体調不良の子どもがいる場合、子どもの状況に応じた食事が提供されていますか。 ☆■ ① 除去食や特別食を提供する場合は、主治医の指示や指導を受けている ■ ② 除去食の提供にあたっては、除去する食の選定に関する基準がある ■ ③ 子どもが持つアレルギー疾患や体調についての情報を収集し、食材や調理方法を変えて提供している ■ ④ 子どもに関わる全ての職員には、アレルギー疾患について必要な知識や情報が周知・共有されている ■ ⑤ 除去食は、トレイの色を変えるなどして、子どもや職員が取り間違えないように配膳の工夫をしている ☐ ☐	A	アレルギー対応のため卵・乳製品の提供を控え、栄養素の補給についてはその他の食材で補っている。それ以外の除去食を提供する場合は、必ず主治医による指示書に基づいて提供している。また、トレイの色を変えたり、メモを貼り付けたりして見て分かるようにすると共に、調理室とも連携を取り、必ず職員間で声掛け確認をして配膳を行っている。子どもに対しても、除去食の提供がある際は席を離すなど配慮し、注意を促している。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
14	家庭との連携	保育所で提供する食事について、保護者等に対して説明し、理解を得ていますか。 ☆■ ① 保護者等に対して、発育期にある子どもの食事の重要性や保育所での食事の取り組みについて説明している ☐ ② 保護者向けに試食の機会を設けるなどして、栄養、味付け、食べ方等の配慮内容を伝えている ■ ③ サンプルを示し、その日の献立や量を保護者等に伝えている ■ ④ 保護者から、子どもの食事について相談された場合は、相談内容にふさわしい職員が対応している ■ ⑤ 連絡ノートや登所時の保護者からの話等を総合して、必要な場合には、食事量の調整を行っている ■ 給食参観を通して、食べ方等の配慮内容を伝えている ☐	A	給食だよりやホームページを通して、1ヶ月の献立や食事の大切さ、季節に関連した内容、特に工夫している点などを掲載している。また、その日のメニューについては展示食を出している。2歳未満児に関しては、食事量についても連絡帳に記載して保護者に伝えている。給食参観という形で子どもたちの食事の様子なども観てもらう機会を設けている。

(3)保育環境

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
15	空間の確保	保育所は、子どもが心地よく過ごせるような空間が確保されていますか。 ☆■ ① 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持されている ■ ② 保育所内外の設備、用具等の衛生管理に務めている ■ ③ 戸外の遊具等が設置され、安全管理、点検が行われている □ ④ 本を読んだり、絵を描いたり、創作活動が自由にできるスペースがある ■ ⑤ 季節の移り変わりが感じられるような環境となるよう工夫している ■ 毎月、安全点検チェックシートを用いて、設備の安全点検を行っている □	A	毎月、安全点検を行うとともに、用具や使用後のおもちゃの消毒を適宜行っている。また、空調設備を使用する際は、室内の温度管理を行い、定期的に喚起も行っている。保育室は季節感が感じられるような壁面や窓面を飾るようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
16	設備・環境	保育所は、子どもたちの心身の安らぎ、くつろぎの面から配慮された場所となるよう、工夫されていますか。 ☆■ ① 子どもが不安になった時などにいつでも応じられるよう、保育者が身近にいる ■ ② 眠くなったときに安心して眠ることができる空間が確保されている □ ③ 庭など、屋外での活動の場が確保されている □ ④ 一人ひとりの子どもがくつろいだり落ち着ける場所がある ■ ⑤ 自然物を取り入れるなど、季節にあわせた保育環境が工夫されている ■ 園庭がないため、屋上で活動ができるよう遊具を用意している □	B	季節を感じられるように夏には笹を飾ったり、秋にはどんぐりやまつぼっくりなどを用いた活動を取り入れ、冬にはたらいに氷がはる様子を観察したりするようにしている。気候のいい時期は屋上での活動機会を多く設けるようにしている。また、眠くなった時は個別に対応をし眠れるようにしたり、不安になったときは側について安心できるようにしたりと配慮している。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
17	保育環境の整備	子どもが自発的に活動できる環境を整える工夫を行っていますか。 ☆■ ① 子どもが自由に遊べる時間が確保されている ☐ ② 子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるよう工夫している ■ ③ 好きな遊びができる環境が整えられている ■ ④ 職員全員が、子どもが自発性を発揮できるような働きかけをするよう心がけている ■ ⑤ 子どもの発達段階に即した玩具や遊具が検討され、用意されている ☐ ☐	B	午前中や延長保育では縦割り保育の中で、自由遊びを取り入れている。また、決まった場所に玩具や用具が置いてあるため、自ら選んで遊んだり友だちと相談して決めたりして遊んでいる。活動の中でもコーナー遊びを取り入れ、子どもが自分選んで遊べるように工夫している。

(4)保育内容

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
18	社会的なルールや態度の獲得	子どもが、望ましい社会的なルールや態度を身につけるよう、働きかけていますか。 ☆■ ① 職員は、常に公平で温かい態度や言葉づかいで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている ■ ② 順番を守る等、社会的ルールを身につけるよう配慮している ■ ③ 当番活動などが日常生活の中で行われている ■ ④ 一人ひとりの子どもの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じた対応をしている ■ ⑤ 地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会を設けている ☐ ☐	A	当番活動を行う中で、個々の役割があることを知ると共に、役割に対する期待感や達成感を味わえるようにしている。また、活動の中で順番を守ること、約束事などについて子どもたちと話をする機会を設けている。感染症の状況を見ながら公共機関を利用しての社会体験も再開している。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
19	表現活動	身近な環境の中で、感覚を豊かにしたり、活動を楽しめるよう働きかけていますか。 ☆■ ① 身近な自然と関わる機会をつくり、子どものさまざまな興味を引き出すようにしている ■ ② 生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくように工夫している ■ ③ 身体を使ったさまざまな表現遊びが取り入れられている ■ ④ クレヨン、絵の具、粘土、紙等の素材は、子どもが自由に選択できるよう、常に複数種類を用意している ■ ⑤ 絵本の読み聞かせ、お話、紙芝居などを日常保育の中に取り入れている ☐ ☐	A	桜を見て花びらに触れたり、セミ・どんぐりやまつぼっくりなど季節を感じられるものを探しに行き、活動の中に取り入れるようにしたり、活動の合間に読み聞かせを行ったりしている。また、日常の会話の中でも、数や色のやり取りをしながら、感覚が身に付くよう心掛けている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
20	人間関係	遊びや生活を通して、人間関係が育つよう働きかけていますか。 ☆■ ① 職員は、子ども同士の関係をよりよくするような、言葉かけを行っている ■ ② 子ども同士のけんかの場面では、危険がないように配慮しながら、子ども同士で解決するように援助している ■ ③ 子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている ■ ④ 自分の言いたいことが相手に伝わる喜びを味わう体験ができるように配慮している ■ ⑤ 子どもの発達段階に応じて、見守り、共感、励ましなど、やる気を育てるような働きかけをしている ☐ ☐	A	年齢に応じて、子ども同士で解決するようにしたり、保育者が仲立ちとなったりしながら関係を築けるようにしている。また、できるだけ自分の言葉で表現するよう促し、必要に応じて代弁したり表現の仕方を伝えたりすることで気持ちを表すことが出来るようにしている。活動や遊びの中で、近況などを報告する機会を作ることで、自分の言葉で表現できるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
21	乳児保育	乳児保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。 ☆■ ① 一人ひとりの生活リズムに合わせた保育を行っている ■ ② 全職員にSIDSに関する知識が周知され、予防のための取り組みが行われている ■ ③ 授乳は、一人ひとりの状況に応じて、子どもが安心できる環境に配慮し、ゆったり飲ませている ■ ④ 離乳食は、家庭と連携して提供するようにしている ■ ⑤ 保護者と継続的な関わりが持てるよう、配慮している ☐ ☐	A	乳児状態確認票を用いて、細目に子どもの様子を観察し記録するようにしている。園内研修の中でSIDSについて話をすることで周知すると共に予防に努めている。離乳食は食材チェックシートを用いて家庭での食材や形状等の進み具合の聞き取りを行い、個々に合わせて提供するようにしており、園での様子も連絡帳等を通して伝えている。また、給食参観を通して子どもの様子を観てもらう機会を設けている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
22	長時間保育	長時間保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。 ☆■ ① 長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食を提供している ■ ② 畳やじゅうたん、ソファなど、寝転ぶことのできる環境がある ■ ③ 異年齢の子ども同士が遊べるよう配慮している ■ ④ 保護者との連携を密に取り、子どもの生活のリズムに配慮している ■ ⑤ 職員の引継ぎ(申し送り)を適切に行っている ☐ ☐	A	就労の時間に応じて軽食を提供するようにしている。子どもの生活リズムを整えるよう保護者に呼びかけているが、就労のため難しい家庭もある。人数に応じて異年齢で遊べるようにしている。職員間の申し送りだけでなく、伝達ノートを活用してしっかり周知できるようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
23	障害児保育	障害児保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。 ☆☐ ① 建物、設備は、バリアフリーの配慮を行っている ☐ ② 障害児保育に携わる職員は、障害児保育に関する研修を受講している ☐ ③ 必要に応じて、医療機関や専門機関から助言、指導を受けている ☐ ④ 保護者に対して、適切な情報を伝える取り組みをしている ☐ ⑤ 障害のない子どもの障害児への関わりに対して配慮している ☐ ☐	D	今年度は対象となる障がい児の受け入れを行っていない。

3. 子育て支援

(1)保護者等への支援

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
24	信頼関係の構築	保護者等の気持ちに共感しながら、信頼関係を築くよう努めていますか。 ☆☒ ① 送迎時の会話や連絡帳を活用して、子どもの様子を伝えている ☒ ② 入所までの生活歴や家庭での状況を把握している ☒ ③ 保育参加(観)を行うなどして、保護者と共通理解を得る機会を設けている ☒ ④ 保護者の意向を踏まえて、個別面談を実施している ☐ ⑤ クラス全体の様子を伝える保護者懇談会等を実施している ☐ ☐	B	入園前に生活歴や家庭での状況の聞き取りを行い、個々に合わせた対応をするよう心掛けている。子どもの様子については、必要に応じて登降園時に話をするが、主に連絡帳を活用して伝えている。個人懇談では家庭での様子を聞き取りしながら集団での様子を伝え、必要な関り方について話をするようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
25	保護者等との連携, 共有	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者等との連携および情報共有が行われていますか。 ☆■ ① 連絡帳(ノート)やメール等を活用し、情報共有するようにしている ■ ② 「園(クラス)だより」や「お知らせ」により、保護者等に対して保育や行事についての意図を伝えている □ ③ 定期的に、アンケートを行い、保育方針に対する保護者の理解度や保護者の保育ニーズを把握している ■ ④ 保護者と子どもの生活ぶり、成長等に関する情報を常に共有するようにしている ■ ⑤ 長期欠席等に対しては、連絡をとり、個別に相談の機会を設けている □ □	B	配信システムを導入し、情報共有はスムーズに行えている。また、必要に応じて書面での対応も行っている。保育ニーズに関する保護者アンケートを行っていないので、十分な把握ができていない。長期欠席等に対しては、保護者と定期的に連絡を取るよう心掛けた。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
26	相談・情報提供	保育に関する知識や技術を活かして、保護者等からの相談にあたっていますか。 ☆■ ① 保護者等からの相談に応じる体制を作っている ■ ② 保育に支障をきたさない範囲で、相談の曜日や時間は、相談者の意向を汲んで対応している □ ③ 相談者に提供できるような子育て支援のための資料を作成している □ ④ 相談内容の記録は、記載内容にバラつきが生じないための工夫を行い、適切に保管している □ ⑤ 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言(スーパービジョン)が受けられる仕組みがある □ □	C	保護者の意向を汲んで、相談の日時設定を行い、園長も同席し必要に応じて助言するようにしている。また、子育て等を通して経験した職員が、必要に応じて助言することがある。記録については、要件に応じて児童票や伝達ノートへの記録をしているが、統一性を持たせた記載方法ではない。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
27	不適切な養育に対する支援	虐待等、不適切な養育が行われている可能性があると感じた場合は、速やかに対応していますか。 ☆■ ① 子どもの心身の状態を定期的、継続的に観察し、必要に応じて随時把握し、記録している ■ ② 日々の登所・帰所時などの様子から、保護者等と子どもの関係を観察している ■ ③ 不適切な養育の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報共有し、対応を協議している ■ ④ 保育所での対応に限界がある場合は、関係機関に通報している ■ ⑤ 虐待を発見した場合は、速やかに市区町担当者や子ども家庭センターに通報している ☐ ☐	A	不適切な養育の可能性があると感じた際は、園長に報告し、必要に応じて保護者への聞き取りを行うこともある。また、子どもの様子については、丁寧に観察するように心がけている。関係機関との連携が必要な場合には、連絡を取り行っている。これらの詳細については記録を残している。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
28	虐待等への対応	虐待を受けている子ども（虐待の可能性がある場合を含む）に対して、適切に対応していますか。 ☆■ ① 虐待を発見した場合は、得られた情報が速やかに保育所長に届く体制がある ☐ ② 虐待を発見した場合の対応等について、マニュアルがある ☐ ③ マニュアルにもとづいて、職員研修を行っている ■ ④ 職員は、虐待が疑われる子どもの特徴を理解している ■ ⑤ 日頃から、関係機関と連携を図るための取り組みを行っている ☐ ☐	B	虐待を発見した場合は、園長への報告を速やかに行い、関係機関との連携を取っている。

4. 子どもの安全

(1)安全・事故防止

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
29	食中毒・感染症対策	食中毒や感染症に対する予防および発症後の対策は、適切に行われていますか。 ☆■ ① 食中毒や感染症に関する予防マニュアルおよび対策マニュアルを作成している ■ ② マニュアルは、職員に周知されている ■ ③ 子どもに対して、食中毒・感染症予防に関する教育を行っている ■ ④ 保護者等に対して、食中毒・感染症に関する普及啓発を行っている ■ ⑤ 職員の健康状態をサービス提供日ごとにチェックし、体調の悪い職員の交替基準を明確にし、運用している ☐ ☐	A	保護者に対して、お便りやボードへの記載によって普及啓発を行っている。また、子どもに対しては、日々の生活の中で予防を心がけるよう促し、手洗いやうがいの徹底や必要に応じて手指消毒を行っている。職員は各自が体調管理を心掛けるよう周知するとともに、体調不良の時には報告の上休むようにしている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
30	事故・天災への対応	事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制がありますか。 ☆■ ① 子どもの状態急変や事故発生等、緊急時の対処方法や連絡先などのマニュアルがある ■ ② 子どもの緊急連絡先を把握している ■ ③ 職員は、救急救命法についての研修を受講している ■ ④ 火災や地震を想定した避難訓練を定期的実施している ■ ⑤ 保育所内で起きた「ヒヤリ・ハット事例」を蓄積し、事故発生を未然に防ぐための検討をしている。 ☐ ☐	A	毎月、火災や地震(南海トラフ地震)を想定した避難訓練を実施している。また、事故や緊急時の対応についても、職員が定期的に訓練を実施している。園内での「ヒヤリ・ハット」については、毎月各クラスが職員会議で報告し、園長の助言を受けたり、話し合ったりする機会を設けている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
31	不審者対策	不審者の侵入などに対応できる体制がありますか。 ☆■ ① 不審者等の侵入防止策(出入り口の施錠, 通報システム等)が講じられている ■ ② 不審者の侵入時における対応マニュアル(園内・園外)が整備されている ■ ③ 不審者対応マニュアルは, 職員に周知されている ■ ④ 不審者の情報が, 関係機関や近隣住民等から得られるネットワークがある ☐ ⑤ 警察や警備会社等との連携のもとで, マニュアルにもとづく研修が行われている ☐ ☐	B	出入口の施錠を行い、登降園や来客時にはインターホンで必ず名前や顔等の確認をするようにしている。また、警察や警備会社への連絡システムを取り入れ設置している。不審者侵入時の訓練を行っているが、十分ではないため、今後も続けて訓練を行っていく。

5. 地域との関わり

(1)関係機関および地域との連携

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
32	関係機関との連携協力	子ども家庭センター, 要保護児童対策地域協議会, 小学校等と連携し, 必要に応じて協力体制を築いていますか。 ☆■ ① 障害や発達上の課題がみられる子どもとその保護者等には, 専門機関を紹介し, 一緒に支援している ☐ ② 小学校児童と保育園児の交流行事を行ったり, 定期的に情報交換するなど, 小学校との連携体制がある ■ ③ 関係機関や専門機関などと定期的に情報交換するなど, ネットワークを築いている ☐ ④ 要保護児童対策地域協議会の構成メンバーとなり, 要保護児童の早期発見や保護に協力している ■ ⑤ 行政の支援の下に子どもの育ちを伝えるための資料(保育要録など)が小学校に送付されるような体制を作っている ☐ ☐	B	必要に応じ、保護者へも専門機関を利用するよう勧めており、関係機関との連携を図っている。保育要録を小学校へ送付しており、学区の連絡会へは参加している。しかし、園児が学区外の小学校へ行くことが多いため、交流行事への参加は難しく十分な連携体制が取れていない学校も多い。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
33	地域の子育て支援	地域の子育て支援の拠点として、子育て家庭に対して保育所機能を還元していますか。 ☆☐ ① できる範囲で、保育所を利用していない子育て家庭からの相談に応じようとしている ☐ ② できる範囲で、園庭開放、子育てセミナー等を行うようにしている ■☒ ③ できる範囲で、一時保育、交流保育等を行うようにしている ■☒ ④ 緊急入所については、関係機関と連携し、柔軟かつ速やかに行われるよう努めている ☐ ⑤ 地域の子育て支援ニーズについて、職員が話し合う機会を定期的に設けている ☐ ☐	C	子育ての相談に応じる旨は、ホームページを通して述べているが、これまでの実績はない。緊急入所や一時保育については、できる範囲で行うように努めている。

No.	小項目	設問	自己評価	判断した理由など
34	一時保育	一時保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。 ☆☒ ① 一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している ☐ ② 一人ひとりの子どもの日々の状態を把握している ☐ ③ 一時保育の担当者が決められている ☐ ④ 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている ☐ ⑤ 必要なケースについて、相談に応じている ☐ ☐	C	受け入れ時には一時保育申込書の記入を行い、簡単な聞き取りを行うようにしている。また、通常保育の子どもとともに活動を行うようにし交流に努めている。